

## 第73回火山噴火予知連絡会幹事会議事録

日時：平成8年10月2日（水）12時00分～13時00分

場所：気象庁 第2会議室（5階）

出席者：井田、岡田、浜口、藤井（敏）、渡辺、藤井（直）、石原、

加藤（代理：国土庁）、三宅（代理：文部省）、澤田

事務局：三上、齊藤、池田

1. 活火山の追加認定について
  - ・関係自治体等には事前に説明を行った。
  - ・報道機関には、事前にしほりをかけて報道参考資料を公表。
  - ・活火山SGの検討結果（3火山の追加）を本日連絡会にはかる。
  - ・現段階では他に追加を検討すべき火山はない。
2. 九重山の火山活動について長期予測WGでの検討結果の報告
  - ・主に地殻変動観測結果からみた九重山の活動について評価検討した。前回の活発化との見解は活動の中の揺らぎとの結論が出た。
3. 長期予測WGの各SGでの検討結果について報告
  - ・火山情報SGでは、雲仙岳及びアメリカの火山情報の事例報告等がなされた。
  - ・長期予測SGでは、階段ダイヤグラムが公表されている火山を調査することとした。火山噴火の前兆現象があったかの調査も必要との議論がなされた。ケーススタディの火山について基礎的なデータを集め具体的な作業に入ることにした。
4. 予知連資料のデータベース作成について
  - 1) 火山課で作成したデータベースの内容を事務局から説明した。以下の意見があった。
    - ・何らかの形で過去の予知連資料を判り易いものとするためにまとめたい。
    - ・当面何を目的とするのか等のガイドラインを示すべき。外部からアクセスできるものとして作成するのか。未公表データも資料として入れるかも問題。
    - ・現在はCD-ROM等に入力する方向で考えている。
    - ・我々が活動評価するために過去資料を検索・比較しやすいものを作成すればよいのでは。
    - ・リアルタイムのデータをアクセスできるようにすべき。
    - ・現在気象庁ではホームページでの情報提供等を検討しているが、結論はまだ出ていない。
    - ・誰のために何をするのかをはっきりすべき。
    - ・一般に公開する情報を積極的に作るべき。
  - 2) 目的を含め次回にガイドラインを示すようにする。
5. 今後の連絡会の運営方法について
  - ・提出資料の識別について、機関ごとに事務局から表紙を配布する件について提案したが、資料表紙に地域ごとの番号を付すなど方法が判り易いのではないかと意見があり、事務局で検討して、次回、再度提案する。
6. その他
  - ・火山噴火予知計画のレビューについて報告があった。